

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0139
施設名	まごころ会保育園
施設所在地	東京都北区上中里2-37-2
法人名	宗教法人 聖正道教団

1. 活動のテーマ

<テーマ>

運動と発達

<テーマの設定理由>

運動は単に「足が速くなる」「筋力がつく」ということだけではありません。体をコントロールする運動は、脳を刺激し、集中力、感情のコントロール、自己肯定感、さらにはコミュニケーション能力を育む土台となります。「運動の根底にある発達のメカニズム」を保育者が理解し、日々の活動に生かせるため、このテーマを掲げました。

2. 活動スケジュール

昨年度は、年齢別の日常保育、異年齢の合同活動、の中で「運動と発達」プログラムを実践した。各クラスでは、乳児のハイハイから幼児の集団競技まで、発達段階に応じた身体遊びを日々展開。サーキット遊びや季節の行事では、異年齢の交流を通して子ども同士の育ち合いを促した。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

段ボールを用いたキャタピラを準備し、子どもが2人組で協力しながら活動できる環境を設定した。また、安全に身体を動かせるよう十分なスペースを確保し、順番を待つ場所やスタート・ゴールが分かりやすい配置となるよう工夫した。子どもたちが自ら挑戦したくなるよう、活動しやすい動線や雰囲気づくりにも配慮した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

2人組で段ボール製のキャタピラに入り、友達と息を合わせながらハイハイで進む活動を行った。子どもたちは、相手の動きに合わせて前へ進むことを楽しみ、「もっと速く進みたい」「一緒に頑張ろう」と協力する姿が見られた。繰り返し挑戦する中で、自分たちで身体の動かし方を工夫したり、友達とのやり取りを楽しんだりしながら活動を展開していた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

活動中は、「せーの!」「もっとはやく!」など、友達と声を掛け合いながら進む姿が見られた。相手の動きに合わせてようしたり、進み方を相談したりする様子もあり、協力しながら活動を楽しんでいた。また、うまく進めない時には繰り返し挑戦し、自分たちで身体の動かし方を工夫する姿が見られた。保育者は、「どうしたら進みやすいかな?」「息を合わせてみよう」などの声掛けを行い、子どもたちの主体的な気付きや友達との関わりを支えた。



が分かる写真 2枚以上を
能性がありますので、公
い。)



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動を振り返る中で、子どもたちが友達と動きを合わせようと意識しながら取り組んでいる姿に気付くことができた。また、繰り返し挑戦する中で、自分たちで進み方や身体の使い方を工夫する姿が見られ、遊びの中で主体性や協同性が育まれていることを感じた。保育者が答えを伝えるのではなく、子ども自身が考えられるよう関わることの大切さについて、改めて確認する機会となった。